

—淡路の情報いっぱい！生活創造しんぶん—



月刊

ポケットあわじ



令和へのメッセージ～伝えたい島の記憶～

VOL.206

もくじ

P1 明石海峡大橋 P2 電車と船の思い出 P3 大相撲今昔 P4 農村の風景、思い出の風景 P5 本町商店街・ハーモニカ P6 淡路文化会館・兵庫県淡路県民局・淡路島くにうみ協会からのお知らせ P7.8 淡路の文化活動・イベント情報



明石海峡大橋開通ヒストリー

1988年(昭和63年)の着工から1998年(平成10年)まで約10年の歳月をかけて建設された世界最長の吊り橋明石海峡大橋は1998年4月5日に開通しました。建設費は約5000億円といわれています。

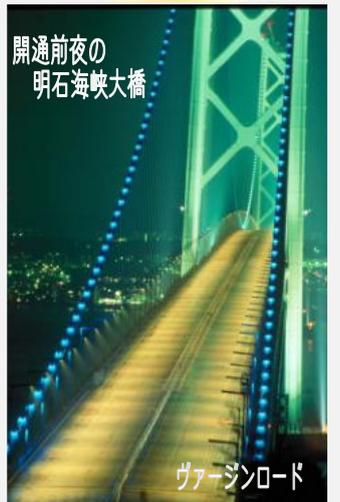


橋脚(アンカレイジ)の基礎部分は直径85メートル



アンカレイジ建設中
建設現場の防護壁には淡路人形浄瑠璃のデザイン

夜景の美しさから「パールブリッジ」と呼ばれています。



開通前夜の明石海峡大橋

ヴァージンロード



2010年11月たこフェリー運航休止、2012年正式に廃線

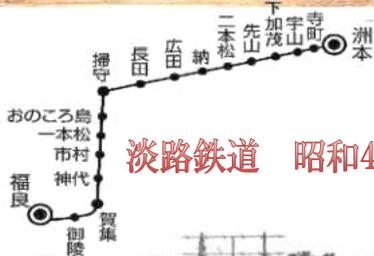
明石海峡大橋は当時の岩屋の住民、淡路島民の夢でした。ケーソンができ、主塔が立ち、ケーブルが張られ、橋桁が吊られていく。日々少しずつ出来上がっていく明石海峡大橋を播淡汽船(現淡路ジェノバライン)や明石フェリー(通称たこフェリー)から見上げながら、より便利になるという期待に胸を膨らませていました。橋桁の街になるかもという一抹の不安とともに…。

かつて岩屋は淡路島の北の玄関口でした。明石～岩屋間は、フェリーか高速艇を選べました。岩屋港前からは淡路各地に行くバスの停留所があり、活気あるお店と大勢の人で年中賑わっていました。橋の開通にともない阪神間へ移動する交通手段は船から高速バスになり、岩屋は交通の要衝としての地位を失い、交通のハブは舞子になってしまいました。たこフェリーがなくなり24時間本州にアクセスする公共交通機関がなくなったことの影響から、仕事で神戸や大阪に通う多くの住民が流出し岩屋の人口は激減しました。

平成が終わり令和の時代が始まりました。あなたにとって平成はどんな時代でしたか?どんな変化がありましたか?橋のおかげで、私の住む岩屋の観光施設は今日も賑やかです。令和の時代は海外からの観光客が増えるかな。令和ってどうなるのかな。そして、どうしていいのかな…。橋を下から眺めながら期待に胸を膨らませる毎日です。
(応援隊:竹代 結)

電車と船の思い出

昭和24年生まれの私にとって思い出の乗り物といえば、今は廃線や航路が廃止された電車と船です。



淡路鉄道 昭和41年廃線・・・

～電車の思い出～



洲本川鉄橋



洲本駅

◎「淡路島今昔写真集」

私の母親の実家は、現在の南あわじ市賀集です。子供のころ賀集へ行く時はいつも電車でした。乗る駅は宇山駅で、降りる駅は賀集駅でした。ほとんど母親と一緒にでしたが、1人で行ったことも何回もありました。小学校2年生の時だったと思いますが、その時は1人で行きました。電車の中で途中から寝てしまったようで、車掌さんに起こされました。「ぼく、終点の福良について。」って。その車掌さんに事情を話すと洲本行き電車に乗せてくれ「賀集駅は2つ目の駅やからもう寝たらあかんで。」と優しくしてくれたことが今でも思い出に残っています。それから小学校の遠足にも電車に乗って行ったことが何回もありました。その時は大野小学校から広田駅まで歩いて行き、それから電車で目的地近くの駅まで乗りました。おのころ島神社や福良の海岸まで行きました。懐かしい昭和30年代の電車の思い出です。

広田駅から電車に乗って福良へ遠足に行きました。



賀集駅



昭和30年代 小学校の遠足

洲本～福良までの切符代は120円でした。

～船の思い出～



すもと丸

洲本港から神戸港中突堤への航路は、関西汽船が運航していましたが、その後は共同汽船が引き継ぎました。神戸や大阪へ行く時はこの航路が多かったのですが、時には洲本港から深日港への航路も利用していました。大阪の親戚へ遊びに行くのも、小学校や中学校の修学旅行へ行くのもこの航路で神戸まで行きました。私が結婚したのは昭和49年ですが、新婚旅行に出発する時には多くの人たちが5色の紙テープで見送ってくれました。

その他にも電車と船の思い出がたくさんありますが、道路網の発達や大鳴門橋や明石海峡大橋が完成し、電車や航路が廃止されました。淡路に電車が走っていたのも知らない世代が多くなり、また客船やフェリーボートの航路も次々と姿を消していきましたが、自分にとって昭和の思い出として心の中にしっかりと残っています。

(応援隊：田処 亮久)



門出を祝って5色の紙テープで見送ってくれました。



南あわじ市出身
東前頭十五枚目 (5月場所現在)

『令和の最初に白星で良かった。どん
どん番付を上げていきたい。』と、威
勢よく話した。
(令和元年五月十三日付 神戸新聞)

てるつよし
令和のホープ 照強
淡路島の 大相撲今昔



関取 照強(南あわじ市出身)。淡路島からの関取誕生は55年ぶり。ここでは特
に活躍した鳴門海関と成山関について紹介します。

(1920年以降) 淡路島出身で
活躍した力士

南あわじ市出身の若鳴門関と
洲本市出身の朝間関も
幕内力士として活躍しました。



しこ名(本名)	生年月日	出身地	身長・体重	自己最高位	受賞歴
照強(福岡 翔輝)	平成7年1月17日	南あわじ市八木	169cm 112kg	前頭14枚目	
鳴門海(武島 一行)	大正15年1月1日	三原郡北阿万村	183cm 90kg	前頭筆頭	十両優勝1回 殊勲賞1回 技能賞1回 金星3個
成山(成山 明)	昭和6年11月27日	洲本市由良町	176cm 110kg	西小結	十両優勝2回 殊勲賞1回 技能賞3回 金星6個

(1920年以前)

はちじんしんぞう おおなるとなだえもん
大阪相撲初代の横綱 八陣信造(1837~1899)は淡路市尾崎出身。大鳴門灘右衛門(1853~1908)
は淡路市塩田出身、八角部屋をつくり多くの力士を育てました。

~観戦の思い出~



照強(右)産経ニュース

鳴門海や成山が活躍していたころの相撲観戦と言えば、専らラジオ
放送が主でしたがテレビ中継も始まっており、電気屋さんの店頭にあ
るテレビに皆で集まり応援していました。鳴門海や成山が横綱を破る
たび、大歓声をあげました。



昭和29年 ねり子祭りと成山関 ©「なつかしの淡路島」宗 虎亮写真集

近年では平成27年3月
30日に南あわじ市文化体

~巡業~

育館で大相撲淡路島場所が開催された。この淡路巡
業は14年ぶりであり、1300人の観客を前に激しい取り組みが繰り広げ
られた。当時幕下であった照強が下手投げで希善龍を下したほか、
南あわじ市出身の4力士が出場して白星を挙げた。

私は子供のころから祖父と一緒にラジオで相撲
中継を聞きながら、淡路島出身の成山や鳴門海が
活躍するのをすごく感動しながら応援していました。
淡路出身の人物が全国に流れるラジオで名をとど
ろかせているということはとても誇りに思えることで
した。主人も相撲ファンであつたらしく当時の相撲関
連の記事を集めたスクラップブック(神戸新聞)をまと
めており、今回の記事を書くにあたって改めて当時
を思い出しました。

照強がんばれ！応援しているよ！怪我には気を
つけてね！
(応援隊 米田 静子)



時津山 対 成山(右)



鳴門海また殊勲賞



今

なつかしい牛と農作業 東山寺



昔

田畑を牛で耕し作物を作っていました。

40年位前の東山寺周辺の風景です。今では駐車場になっていますが、昔から東山寺周辺の長沢では大根が有名で現在も「東山寺大根」はブランド品です。

今は機械化が進んで便利になっていますが、以前は各農家では牛を飼っていて田畑を耕すのに活躍していました。田畑を牛ですき、作物を作るのです。牛は人間と同じような物(野菜類)を食べ、米のとぎ汁を飲み、田畑の畦の草を刈って稲ワラと混ぜて食べていました。そのため現在のように除草剤や消毒剤もなく、自然でゆっくりと時間が過ぎていたような気がします。牛も家族の一員です。常に世話をしてもらえる人には「モー」と鳴いても、声のトーンが違います。また、子どもたちも牛にえさを与えたりしながら、牛と人とのコミュニケーションを大切にしながら生活していた良き時代でした。



今

棚田に見るふるさとの郷愁 仁井



美しい棚田は太陽光発電に変わってきました。



昔

～残したい棚田の風景～

淡路市仁井長島の棚田風景です。播磨灘を眼下に棚田の中程に効率よく苗代があり、数えるのも大変なぐらいの枚数の田んぼを田植えがしやすいように、手で一枚一枚ならしています。

機械の音もなく、静けさのなかで人とのあいさつの一言が疲れをいやしてくれたことでしょう。

現在は、農業をする人も減少し、農村風景もすっかり変わりました。子どもたちは現在の様子しか知りません。以前の良さを残し、伝えていくのが私たちに与えられた仕事かもしれない。大いなるやさしさに包まれた「ふるさと」をいつまでも大切に、後々の人たちに伝えていきたいと思っています。

(応援隊: 廣岡 ひろ子)



うずしおライン料金所の思い出



～私の思い出の風景～

◎淡路島今昔写真集

わたしの思い出の風景は、「うずしおラインの料金所を回避する抜け道の風景」です。当時うずしおラインは有料道路だったので、地元の人はいよいよ料金所の手前で左折し料金所を避けて通っていました。抜け道を無事通過するたび、子ども心に得をした気分になったものです。料金所から丸見えの抜け道、ピーク時は大渋滞でした。

※ うずしおラインは昭和44年に開通した旧三原町八木養宜から志知～阿那賀を結ぶ道。通行料金は普通車で150円でした。

(応援隊: 川原 雅代)



洲本本町の商店街

昭和36年アーケード完成

むかしむかし、洲本の本町通りと言えば、淡路島で一番の繁華街でした。平日の夕方は買い物客や学校帰りの学生であふれていました。高校生のお気に入りの喫茶店が何軒もあり、今日はこの店、明日はこの店と行っていたようです。本屋さんが2軒あり、お店の前は学生の自転車がいっぱい並んでいました。休日には、近隣の町からの買い物客がいっぱい来ていました。夏の暑い日、アーケード通りは各店のクーラーがきいていて、ドアの開け閉めのおかげで通り全体が涼しかった思い出があります。



©「なつかしの淡路島」宗虎亮写真集

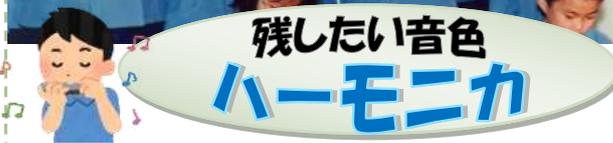


昭和の終わりから平成にかけてシャッターの閉まったままのお店が多くなり、寂しい気持ちになりました。そして、私が本町に行く機会も減っていきました。現在、南あわじ市に住んでいる私は、たまにしか本町を訪れる機会はありませんが、そのたびに「あっ！こんな店が出来ている。えっ！この店面白そう。」と、興味深いお店ができています。また、うーんと若い平成生まれの同僚が、「すごいトロチックないい雰囲気のお店を見つけました。」と喜んで教えてくれたお店が、昔から知っているお店だったりして、昔と変わらない趣のあるお店も残っています。新しい人が集まって、新しい街が発展していく様子をこれからも楽しみにちよくちよく遊びに行きたいと思っています。

(応援隊:坂本 厚子)



「吹いて吸って～吹いて吸って～」と言いながら「ド・レ・ミ・ファ」とハーモニカを吹いたこと、覚えていませんか？「ソ・ラ・シ」は、「吹いて吸って吸って」と、難しい。独特の透き通った音色でどこか懐かしいハーモニカ。かつては全国の小・中学校の教育楽器でした。それも1970年代までのこと。平成でなく昭和の時代でした。その後指導が困難ということで鍵盤ハーモニカに取って代わられてしまい、その音色を耳にする機会もほとんどなくなってしまいました。



今の子は 吹いたことない ハーモニカ♪



上の写真は30年ほど前の旧三原郡(南あわじ市)三原町の保育園の生活発表会。このころの保育園児はすごい！難しいハーモニカを指導した保育士さんもすごい！年号も平成から令和へと変わり、ずいぶん年月が経った今、またハーモニカが静かなブームだとか。

淡路市で活躍している「にこにこ一座」。男性2名、女性8名。代表は森口哲さん(70才)。中学生の頃からハーモニカが好きだった森口さん。参加した研修旅行のバスの中でハーモニカで童謡を吹いたところ、バスの中は全員合唱に。介護施設でハーモニカのボランティア演奏やイベントに参加しているうちにメンバーが集まって一座結成となりました。練習は月2回。歌謡曲や童謡、季節に応じた曲を練習します。「参加者全員が音を出すことはとても良いこと、これからも続けていきたい」と話す森口さん。新しい物が次々生まれ、古い物がすごいスピードで消えていく今、ハーモニカの透き通った音色も残したい物の一つです。

(応援隊:村上 紀代美)



淡路文化会館からのお知らせ

令和元年度 淡路生活創造活動グループ交流会

生活創造情報プラザを拠点に活動しているみなさんの交流会です。是非一度、ご来場ください。

日時：令和元年7月13日(土) 12:50~16:30

場所：淡路文化会館 講堂

入場：無料

問合せ：淡路文化会館

生活創造活動グループ交流会担当：久保

TEL 0799-85-1391/FAX 0799-85-0400

第36回 淡路人形浄瑠璃 後継者団体発表会

淡路人形浄瑠璃を継承する小学生、中学生、高校生、社会人による発表会です。徳島の高校生も出演します。各団体が一堂に集うのはこの機会だけです。是非ご覧ください。

日時：令和元年7月21日(日)10:00~(開場9:30)

場所：淡路文化会館 講堂

入場：無料

問合せ：淡路文化会館

TEL 0799-85-1391/FAX 0799-85-0400

兵庫県淡路県民局からのお知らせ

身近に潜む危険 — 命にもかかわる食中毒 —

微生物が原因の食中毒はとても怖いものです。下痢や嘔吐など深刻な症状を引き起こし、体調を崩して命にかかわることもあります。外食だけでなく家庭で起こるケースも多く、十分な注意が必要です。

つけない



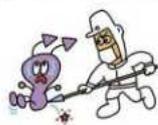
- ① 手洗いを正しく行う。
- ② 食材をよく洗う。
- ③ 調理器具はしっかり殺菌する。

ふやさない



- ① 調理した食品はすぐに提供するか冷蔵庫に保管する。
- ② 食材の保存温度を守る。

やっつける



- ① 加熱調理する食品は十分に火を通す。
- ② 寄生虫は取り除く。

食中毒予防の三原則は、食中毒の原因菌を「つけない」「ふやさない」「やっつける」です。細菌による食中毒は特に夏場に多く発生します。体調の悪い時、子供、高齢者は特に注意するようにしてください。

淡路県民局県民交流室県民・商工労政課
(消費者センター)

☎0799-26-3360 📠0799-24-6934

(一財)淡路島くにうみ協会からのお知らせ

【俳句入門講座】

俳句初心者の方を対象に、俳句の基礎知識や俳句の歴史、作り方等を学ぶことができる講座を開催します。

- 日時 第1回 7月12日(金)
- 第2回 7月19日(金)
- 第3回 7月26日(金)

- 場所 洲本市文化体育館
- 時間 14時~16時
- 定員 40名
- 募集対象 高校生以上の方
- 受講料 500円(全3回分)
- 申込期限 各回とも開講日の3日前まで

【令和元年度 第1回淡路島くにうみ講座】

- テーマ 「わたしの創造の源
~淡路島から未来をつくる~」

- 講師 清川あさみ氏(アーティスト)
- 内容 写真に刺繍を施す手法による作品制作への思いやエピソード、淡路島が自身に与えた影響など。

- 日時 8月10日(土)(14時~15時半)
- 場所 洲本市文化体育館
- 定員 500名(無料)
- 申込期限 8月2日(金)

- 申込・問合せ：(一財)淡路島くにうみ協会

電話：0799-24-2001

FAX：0799-25-2521

Eメール：awajishima@kuniumi.or.jp



◆淡路市立しづかホール

所〒656-2132淡路市志筑新島5-4
 ☎0799-62-2001 ☎0799-62-6465
 Mail : info@shizukahall.com
 休 火曜休館

心屋仁之助 ライブ&トーク
 ~心が風になる~

日 8月4日◎
 時 開場13:00 開演13:30
 料 【前売】6,000円【当日】6,500円
 ※全席指定

しづかホール25周年記念音楽祭
 & 第10回しづかマルシェ

出演者&出店者募集

日 9月8日◎
 時 開場13:00 開演13:30(音楽祭)
 10:00~16:00(マルシェ)
 料 参加費
 【音楽祭】一組あたり1人1,000円
 (6人以上は一組5,000円)
 【マルシェ】1ブース1,500円(ロビー)、1ブース0円(駐車場)
 締 7月31日◎申 問 しづかホール
 ※詳しくはHPをご覧くださいか、お問い合わせください。

◆洲本市民工房

所〒656-0021洲本市塩屋1-1-17
 ☎☎0799-22-3322

墨に遊ぶ子供たち展

「淡味篆会」による洲本市内の書道教室に通う子供たちの作品展
 日 7月14日◎、15日◎
 時 10:00~17:00(15日は16:00まで)
 会 3Fギャラリー 料 鑑賞無料



◆淡路人形座 7月公演

所656-0501 南あわじ市福良甲1528-1地先
 ☎0799-52-0260 ☎0799-52-3072

引き裂かれる親子の情愛
 「阿波十」

定時公演

日 詳しい日程はお問い合わせください。
 時 10:00、11:10、13:30、15:00
 休 毎週水曜日

①「人形解説」
 「傾城阿波の鳴門 順礼歌の段」
 料 大人1,500円 中高生1,300円
 小学生1,000円 幼児300円

【七月特別公演】

淡路人形浄瑠璃とだんじり唄

主君を討ち果たした光秀とその家族の葛藤を人形浄瑠璃とだんじり唄で上演!

だんじり唄とは、淡路島の春の祭りを彩る伝統芸能の一つ。起源は明治の中頃、浄瑠璃の山場を集約し、太鼓のリズムに合わせ唄いこんだ「浄瑠璃くずし」です。

○「絵本太功記 十段目 尼ヶ崎の段」
 東本町だんじり唄伝承会
 ○「絵本太功記 尼ヶ崎の段」
 淡路人形座

日 7月27日◎ 時 開場18:30 開演19:00
 料 前売券 大人2,000円 中高生1,500円
 小学生1,000円
 当日券 大人2,500円 中高生1,800円
 小学生1,200円
 ※5月27日◎より発売中(全席指定)

【夏休み特別企画】

「バックステージツアー」

ふだん見ることの出来ない舞台裏を座員がご案内いたします。
 ※先着30名様限定(お芝居をご覧ください)なられた方)無料!所要時間約20分
 日 7月27日◎~8月31日◎の毎週土、日、8月12日◎
 時 11:10、15:00の公演終了後(7月27日◎、28日◎、8月3日◎、10日◎、17日◎は11:10の公演終了後のみ)

【速報】第6回 阿波路会 竹本 友和嘉・鶴澤 友男女流義太夫公演

日 8月3日◎ 時 開場17:30 開演18:00
 料 前売券 一般1,000円 学生(高校生以下)・淡路人形芝居サポートクラブ無料
 ※6月3日◎より発売中(全席指定)
 当日券 一般1,500円

◆淡路島国営明石海峡公園

所〒656-2306 淡路市夢舞台8-10
 ☎0799-72-2000 ☎0799-72-2100

淡路市夏まつり

日 7月20日◎ 場 芝生広場ほか
 料 入園無料
 問 淡路市役所商工観光課
 ☎0799-64-0001

わくわく昆虫フェスタ

日 7月13日◎~9月1日◎
 時 10:00~17:00(7・8月)
 10:00~16:00(9月)
 場 ビジター棟ほか 料 イベントにより異なる(別途入園料、駐車料金必要)



◆淡路市立サンシャインホール

所〒656-2305 淡路市浦148-1
 ☎0799-74-0250 ☎0799-74-0256
 時 10:00~18:30
 休 木曜日/祝日の翌日(祝日翌日が土日または祝日の場合、その祝日以降最も近い平日)

ふだんぎコンサート

毎月開催♪未就学児も入場可能なコンサート!子どもから大人まで気軽に楽しめるふだんぎコンサート。
 日 7月21日◎ 時 14:00~
 料 500円



インフォメーション



◆淡路文化会館

所 〒656-1521 淡路市多賀600
☎0799-85-1391 ☎0799-85-0400
時 9:00～17:00 観覧無料

井村 澄展 脳トレ船舶模型展

日本を代表する豪華客船飛鳥Ⅱなど、脳トレで記憶や写真を見ながら手探りで製作した個性豊かな船舶など模型の展示会
日 7月15日(月)～7月29日(日)
会 県民ギャラリー

淡路源之丞座展

淡路市にかつて存在した淡路源之丞座の歴史を写真家宗虎亮氏の記録と志筑小学校児童の調査結果をもとに展示
日 7月18日(木)～7月29日(日)
会 美術展示室

第36回 淡路人形浄瑠璃後継者団体発表会

淡路人形浄瑠璃を継承する小学生、中学生、高校生、社会人による発表会です。徳島の高校生も出演します。
日 7月21日(日) 時 10:00～ 会 講堂

書と現代アート二人展

津守 光氏、上田 寛彦氏の2人による書道50年余りの熟練の筆さばきの作品と、退職後出会った趣味の世界、自己流で自由奔放な作風を見て頂きたい。
日 8月1日(木)～8月11日(日)
会 美術展示室

◆洲本市文化体育館

所 656-0021 洲本市塩屋1-1-17
☎0799-25-3321 ☎0799-25-3325

第51回潮香会展

かな書道作品展
合作(いろは歌)、古筆(臨書)、創作
日 7月6日(土)～7月7日(日)
時 10:00～18:00 (最終日～16:00)
会 会議室 1A-2・3 観覧無料

TAKUYA NAGABUCHI LIVE 「五百の情景」THE SCENE for “FIVE HUNDRED”

日 7月13日(土) 開場15:00 開演16:00
会 文化ホール『しばえもん座』
前売5,000円 当日5,500円
※全席自由整理番号付
申 問 TEL:090-1595-6285(岩崎)
Mail:takuya.awaji@gmail.com

第4回 フレッシュコンサート 衝撃のピアニスト 黒木 雪音を迎えて

日 7月15日(月) 開場13:30 開演14:00
会 文化ホール『しばえもん座』
前売り 一般2,000円 学生1,000円(当日500円増)
申 問 TEL:090-1538-4696(中村)



◆兵庫県立淡路夢舞台温室 「奇跡の星の植物館」

所 〒656-2306 淡路市夢舞台4
☎0799-74-1200 ☎0799-74-1201
時 10:00～18:00 (最終入館17:30)

ウォーターガーデンショー —2019—

日 6月15日(土)～7月7日(日)
前 大人600円、70歳以上(要証明)300円、高校生以下無料

浴衣で植物館★ —浴衣で植物館を見学しよう—

浴衣でご来館のペア1組2名様は600円でご入館いただけます。
日 7月6日(土)～7月7日(日)
時 開館延長夜20時まで(最終入館19:30) 浴衣着用2人1組600円

トロピカルガーデンショー —2019— パリ・神々が宿る島

日 7月13日(土)～9月29日(日)
前 大人600円、70歳以上(要証明)300円、高校生以下無料
※7月11日(木)設備点検のため休館

◆洲本市民交流センター

所 〒656-0054 洲本市宇原1788-1
☎0799-24-4450 ☎0799-24-4452

花の絵ファンタジック水彩画展

色々な種類の花を水彩絵の具でにじみの魅力を活かして描き楽しんでいます。
日 7月2日(日)～7月28日(日)
時 9:00～21:00(最終日は午前まで)
休 月曜休館 会 アールギャラリー
観覧無料

編集だより

「ねんねころころ浜の石 ころころころんでどこへいく～」 ……これは五色町鳥飼の『五色浜の子守唄』です。昔は色とりどりの小石が波打ち際に敷き詰められていました。夢の島と歌われた子守唄と一緒に伝えたい懐かしい風景です。《応援隊：瀬戸由美子》

「ポケットあわじ」は、応援隊の手により取材や編集がされ、月に3,500部発行しています。そして、島内各市の庁舎・公民館・商業施設など約250ヶ所に無料配布しています。今後も生活情報新聞として、豊かな情報をお届けしたいと思っておりますので、ご愛読よろしくお願いいたします。また、読者の皆さまからのお便り、情報をお待ちしています。淡路文化会館のホームページにも掲載していますので、是非ご覧ください。

(発行)淡路生活創造応援隊 淡路文化会館 淡路文化会館運営協議会
〒656-1521 淡路市多賀600 ☎0799-85-1391 ☎0799-85-0400
E-mail : a-pocket@hyogo-ikigai.or.jp
HP : https://www.awaji-bunkakaikan.jp/

私たちはポケットあわじを応援します。

